



センターニュースをお読みの皆様へ

苦悩への勇気

お久しぶりです。私は、昨年に関質性肺炎になりました。多くの方の支えがあり、今、働いています。病気は、失うものばかりではありません。新たな発見もあります。ナチスによる強制収容所の極限の状態を体験した精神科医のヴィクトール・フランクルの言葉は、私に勇気をくれました。

「苦悩する人は、もはや運命を外面的に変えることはできなくなっています。けれども、その人はまさに

苦悩によって、運命を内面的に克服することができるのです。苦悩は成長です。また苦悩は成熟です。苦悩は人間に、ものごとを見抜く力を与え、世界を見通せるようにします。- 苦悩への勇気 - これこそが重要なのです。」私は、新たな発見を楽しみながら、人生に抗うことなく、日々過ごそうと思います。



統括副院長
小沢 浩

還暦・古希・喜寿のお祝い

を開催しました



11月18日・19日、当センターで還暦・古希・喜寿を迎えられた4ヶ病棟、16名の利用者様を対象にお祝いの式典を実施しました。それぞれの病棟職員による工夫を凝らした催しを厚生棟から全病棟に中継し、センター全体でお祝いしました。各病棟はこの日のために装飾され、お祝いの昼食メニューを用意させていただきました。式典では家族からの感謝の言葉に励まされつつ、和やかな時間を過ごすことができました。還暦・古希・喜寿を迎えられた皆様、本当におめでとうございます。(編集委員 清水 信夫)



100歳を迎えられた見学者

がいらっしゃいました

9月17日4名のご家族が来所されました。その方々の中に100歳を迎えられたご高齢の女性がいらっしゃいました。「愛することからはじめよう：小林提樹と島田療育園の歩み」を読み、思い出の場所を見ておきたいと申し込まれたそうです。半世紀以上前になりますが、当時この方はご主人と一緒に洗濯の業務に従事されており、お正月の忙しい時期には学生だったお子様も連れて練馬から通われていたとのことでした。療育園時代にあった周辺の景観はがらりと変わり、坂の途中にあった洗濯場は駐車場となりました。当時の面影は玄関前の八重桜を残すのみとなりましたが、皆さん昔話に花が咲き、ご家族一緒に島田療育園時代の思い出を懐かしんでいらっしゃいました。

療育園が歩き出した大変な時代に療育園を支えていただいたことに加え、半世紀以上の時を経ても、記憶の中に思い続けていただけたことに対して感謝にも似た温かい気持ちを憶えました。お元気で過ごしてください。(編集委員 清水 信夫)



秋の行事

10～11月に行われた行事の様子を各担当者よりお知らせいたします。
(編集委員 清水 信夫)

第3病棟西棟 大遠足

10月3日(木) 3病棟大遠足(西棟)を開催しました。今回のテーマは、「映画館&ハロウィンパーティーに行こう！」映画館&カフェの予約チケットを手に、まずは映画館(厚生棟)に向かいます。大画面と会場に響く音響でハラハラドキドキの『トイストーリーオブテラー』を観たあと、いよいよハロウィンパーティーの会場へ。色とりどりのデザートが並ぶ中、目で見て、香りをかいで、触れて、味わって、選んで、全身でスイーツバイキングを楽しみました。



第3病棟 誕生会

11月の誕生会は、「マジックにじいろ」の赤池様をお呼びし、マジックショーを行いました。カラフルな布が舞ったり、切ったはずの紙がつながったり、みんなで「おおーっ」と声を上げながら見入っていました。重ねた紙をちぎる体験型のマジックでは、ドキドキしながら紙をちぎっていくと、中から素敵な帽子が登場！最後は、南京玉すだれで華やかに終わりました。コロナ以来、久しぶりに外部の方に病棟に入って頂いた誕生会。楽しいマジックをありがとうございました！



第5病棟一班 大遠足

10月16日、参加者一丸となったゲーム大会で盛り上がりました！厚生棟研修室内にちらばった大きな棒を探し出し、それらを集めると、答えのヒントが見つかるという宝探しゲーム。みんなで探し出し、ヒントを元に無事答えを見つけ出すことができました。笑顔と笑い声が響き合う大遠足となりました！



第5病棟二班 大遠足

11月7日、厚生棟研修室でCAPP活動を行いました。6頭のワンちゃんが揃い踏みし、参加者とゆっくりと温かな触れ合いをすることができました。最初からガツリと抱きしめる方もいれば、遠目からゆっくりと見つめつつ、そーっと触れる方など、触れ合い方は様々でしたが、ワンちゃんたちとの穏やかな時間を過ごすことができました！



第6病棟 大遠足

今年の大遠足は『お買い物とお披露目会』。移動販売ふくまるさんが、厚生棟いっばいに洋服や靴・ぬいぐるみなど、リクエストした物を用意してくださいました。順番に出かけていき、思い思いに買い物を楽しみました。ご家族と一緒に買い物された方もいました。実はこんなデザインがお好きだったんだ！と利用者様の新たな一面や、お披露目の時の嬉しそうな表情をみることができ、素敵な2日間となりました。



第7病棟東棟 大遠足

10月31日(木) 7病棟東棟の大遠足を行ないました。午前中はハロウィンにちなんだファッションショーを行ないました。利用者様がモデルとなってランウェイを進んでポーズし、おひとりおひとりにスポットライトが当たる機会となりました。午後はCAPP(人と動物のふれあい活動)を行ないました。動物に触れることで優しさや温もりを感じられた様で、皆さま柔和な表情をされていました。全員参加で、賑やかで笑顔で楽しい、充実した一日となりました！



バルテノン多摩 訪問コンサート

11月24日(日) 厚生棟研修室を会場にコンサートを催し、声楽家の生田有里さんとピアノ奏者の堀川法子さんによる童謡を中心とした音楽をセンターの皆様楽しんでいただきました。表情と動きで聴く人を魅了する生田さんと息の合った演奏を披露する堀川さんの絶妙なコンビネーションにワクワク感が続きました。事前に利用者様のリサーチを行い、興味を持っていただけるように工夫を重ねた様子です。表情一つで場の雰囲気を変えられるのだと改めて感銘したコンサートでした。



多摩市ひまわり教室

スヌーズレン活動体験

「多摩市ひまわり教室」は、市内で生活する心身の発達に配慮が必要な幼児の「育ち」を支援する通園施設です。今年度は7月～10月の計4回、島田療育センターにご協力いただき親子での「スヌーズレン活動体験」を行いました。普段療育で使っている部屋がスヌーズレングッズで幻想的な空間になり、光や映像をうっとり眺めたり、親子で一緒にグッズに触れながらコミュニケーションを楽しんだり、親子でゆったりとした時間を過ごすことができました。また、様々な感覚グッズ

を体験する中で、お子さんが自分にとっての心地よい感覚を見つけて遊び込む姿も見られ、また保護者やスタッフにとっては、お子さんの新たな一面を発見する機会にもなりました。スヌーズレン活動を通して見つけたお子さんの好きな感覚を、今後の療育にも活かしていきたいと思えます。



(寄稿：多摩市ひまわり教室 向井 恵里 様)

ファシリテーションの研修会

を開催しました

10月24日当センターにて、ファシリテーションの研修会を開催しました。今回は特に、重度の障害や医療的ケアがあり、関係する機関や支援者が多いご利用者に関わる職員の方々に向け、会議を円滑に実(じつ)のあるものにするための基本姿勢やスキル(技術)の習得を目的に、「社会福祉法人ソラティオ荒川区障害者基幹相談支援センター」の主任相談支援専門員・医療的ケア児等コーディネーターの林田五月氏にご指導いただきました。講義では、ファシリテーターは仕切り役ではなく会議を活性化させる舵取り役であること、会議の目的を明確化し議論を拡げ(発散)、最後にまとめる(収束)役割を担っていること、チーム力

を最大限に引き出せる場(心理的安全性)を提供すること等の重要性とそのスキルを学びました。その上で小グループに分かれて4つの演習に取り組み、各演習の目的(=会議の目的)に向けて、立場や意見の異なる多職種の会議場面でのファシリテーションを体験し、振り返りを行ないました。



研修を通して日頃の会議の課題や改善点を再認識し、多くの方がファシリテーションの知識やスキルを習得することが、会議やその先の業務や支援をより意義のある物にできると感じ、このスキルをより深めていきたいと思いました。

(社会福祉士 市川 香織)



お子様の発達について、こんなご心配はありませんか？

このコーナーはネットワークしまだで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。

バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

「エレベーター」を「エベレーター」と言い間違えます。どう教えたらよいでしょう？

A

音の順番を入れ替えて言うってしまう誤りは、「音韻意識」(音を意識する力)が未熟なお子さんによくみられる誤りであり、ことばの発達過程ではどのお子さんにもみられます。「音韻意識」とは、「りんご」は「り」と「ん」と「ご」の3つの音から成り立っていることに気づく力です。この「音韻意識」が育ってくるのは、一般的には4・5歳頃からと言われています。「あ」から始まることばをたくさん集めたり、音の数だけ階段やタ

イルを進んだり、しりとり遊びなど、日々の遊びの中で音を意識する機会を設けていただくとよい練習になると思えます。もし、お子さんが言い誤りをしてしまったら、無理に言い直させるのではなく、大人がさりげなく正しく返してあげるのがポイントです。例えば、「あっ！エレベーター！」→「エレベーターだね！一緒に乗ろうね」など。まずは、お子さんが「話したい！」というコミュニケーション意欲を大切にあげましょう。

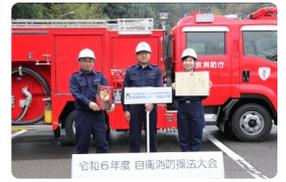
(言語聴覚士 黒柳 絢太)



自衛消防操法大会 に参加しました

10月23日(水) 自衛消防操法大会に参加しました。1号消火栓混合チームとして、作業療法科の坂本さん、療育部7病棟の宮國さん、事務部の會澤が出場しました。27チーム中、1号消火栓混合チームは3組が出場し、準優勝することができました。当初は不安でいっぱいでしたが、前回大会のビデオを見てイメージをつかみ、2回の消防署員からの指導訓練を体験し、数回の自

主訓練で、徐々にではありましたが、なんとかやれるのではないかという思いになりました。当日はあいにくの雨で、島田の順番時には本降りとなる場面もありましたが、1番員のホース延長もスムーズにでき、訓練で指導くださった消防署員からお褒めの言葉をいただき、喜びを分かち合い、この先の自信につながる大会でした。(会計科科长 會澤 秀安)



多摩市医療系防災訓練 に参加しました

10月27日(日) 多摩市医療系防災訓練が多摩市役所、日医大永山病院、南部地域病院、桜ヶ丘記念病院の4箇所で行われました。各会場に市職員と医師、歯科医師、コメディカル、事務員、学生、企業の方等が集まり、当センターも8名が参加しました。多摩市に震度6強の地震が発生した想定で、トリアージ訓練と重症者を災害支援病院から災害拠点病院へ搬送する転院搬送訓練を行いました。トリアージエリアでは傷病者情報をまとめ、軽症・中等症・重症に分けて後方搬送へつなげます。有事の際に迅速に動くために、繰り返しの訓練はとても重要と思いました。今後も当センター職員として災害医療への意識を高めていきたいです。



(防災危機管理対策委員会 西本 有三)

自治会総合防災訓練 に参加しました

10月26日(土) 当センター厚生棟にて、近隣の自治会の方と、地域協定を結んでいるあい介護・天本病院・白楽荘の職員の方にご参加いただき、合同防災訓練が行われました。今年は被災時の最重要課題として挙げられる「災害時のトイレに関して」というテーマで森久保事務局長が講演しました。体験コーナーでは、実際に簡易トイレのパットや凝固剤のお試しや、家庭にある段ボール箱を使ったポータブルトイレの作り方を委員が実演し、参加者の皆様には市販されている「段ボール便器」の組み立てと座り心地などを体験していただきました。自治会の方々には備えることの大切さについて改めて考える良い機会になった、と好評をいただきました。みなさまにもこの機会に防災グッズの見直しなどをしてみてください。



(防災危機管理対策委員会 福島 史)

公益財団法人東京防災救急協会

防災功労者表彰受賞

10月3日に表彰式があり、森久保事務局長が理事として表彰されました。個人表彰ではありますが、島田療育センターが多摩市災害防止協会発足時から50年以上の長きに亘り役員を務め、また島田療育センターが防火防災に寄与していることで受賞しましたのでここにご報告いたします。



お知らせコーナー



東京多摩版「災害対策はじめての一步」 ハンディキャップのある方々の命を守る



日時	2024年12月21日(土)	会場	パルテノン多摩
申込み	Peatixよりお申し込み	参加費	無料

第19回心理講演会 『令和型不登校』の多様な理解 と家庭と学校に期待される支援について



日時	2025年1月19日(日)	会場	オンライン
申込み	Peatixよりお申し込み	参加費	1,100円

季節の彩り

ハロウィンパレード

デイケアセンターの幼児部によるパレードです。感染対策のため実施を見合わせていましたが、久しぶりの再開でセンター内に歓声が響き渡りました。



発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 **島田療育センター**
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>